光輝

令和６年(2024 年)度
山陽中学校だより(こうき)
令和７年３月４日（火）
第 11 号　文責　三浦　洋

問題志向から解決志向へ

３年生はあと１週間で山陽中学校を卒業します。ともに学んだ仲間や先生方と別れ、新たな一歩を踏み出すときが来ました。毎日、当たり前のように山陽中学校に通い、同じ教室で仲間と授業を受け、行事や所属する部活動などで喜怒哀楽を仲間と共有した日常生活は３月で終了します。やり残していることはありませんか？言い残していることはないでしょうか？もしかしたら卒業後は、二度と出会う機会が訪れてこない人がいるかもしれません。

このようにごく自然だった毎日の生活や他者との関係を振り返るたびに、「普段からやがて別れる運命にある他者との関わり方を大切にし、一日一日を過ごしたい」と、いつしか考えるようになりました。

集団生活では、人間関係が上手くいっているときもあれば、関係がこじれることもあります。皆さんのこれからの進路先において、人間関係の悪化が原因で、通いづらくなったり、ひいては学校や仕事をやめたいと思うようになったりするかもしれません。そのようなときは、とかく相手の言動が気にかかり、問題点ばかりが目につきます。お互いの問題点を指摘するようになると、ますます関係はこじれていきます。このような関係を修復するために、他者との人間関係で気をつけなければならないこととはいったい何でしょうか？

私は、相手の意見をよく聞きながら合意形成を図る努力をすることが、何よりも大切であると考えています。何か問題が起こったときに、当事者それぞれが納得し、Win－Win の関係で終わる解決策を見つけることは至難の業です。どうしても問題点に気持ちが傾き、問題志向に陥ってしまいます。当事者それぞれが着地点を見つけようと、同じ土俵の上に立って解決策を考え、合意形成を図る必要があるのですが・・・。

古典落語の演目に三方一両損（さんぼういちりょうぞん）という江戸時代の話があります。

左官の金太郎は、３両のお金が入った財布を拾いました。一緒にあった書付を見て財布の持ち主はすぐに大工の吉五郎だと分かりました。金太郎がお金を返そうとしますが、江戸っ子である吉五郎は、もはや諦めていたものだから、と言い張ってお金を受け取りません。しかし、金太郎もまた江戸っ子なので、是が非でも吉五郎に返す、と言って聞き入れません。互いに大金を押し付け合うという意地の張り合いは、最終的に奉行所に持ち込まれ、名奉行として名高い大岡越前守（大岡忠相）が裁くこととなりました。

双方の言い分を聞いた大岡越前守は、どちらの言い分にも一理ある、と理解を示したうえで、自らの１両を加えて４両とし、２両ずつ金太郎と吉五郎に分け与える裁定を下しました。金太郎は３両拾ったのに２両しかもらえず１両損、吉五郎は３両落としたのに２両しか返ってこず１両損、そして大岡越前守は裁定のため１両失ったので三方一両損として双方を納得させた、という話です。

この話は、お互いが相手の言い分を少しずつ聞き入れ、見事な大岡裁きのおかげで合意形成をして解決しました。何か問題が発生したときに、近江商人がつちかってきた商いの精神として有名な「三方よし」というふうには中々収まりません。むしろ現実的には、この「三方一両損」のように、お互いが少しずつ我慢し合って折り合いをつけ、解決している場合のほうが多いように感じます。

また、大岡越前守のように高額の金品を渡すことはできませんが、当事者の周りにいる人は、何か自分にできる方策を考え、援助の手を差し伸べることができたら、問題解決に役立てるかもしれません。どうか、どちらか一方の味方になり、相手側の問題点を指摘したり、誹謗中傷したりするような手の貸方だけは慎んでほしい、と願います。

４月から新しい生活がスタートします。３年生だけでなく、１、２年生も何か問題が起こったときには、考え方を問題志向から解決志向に切りかえて合意形成を図ってください。一期一会の精神を心にとめて、一日一日を大切に過ごしてください。

３年生、卒業おめでとうございます。